

第三回ナポロアリス杯開催の御礼

拝啓 貴社益々のご清栄のこととお喜び申
上げます。

さく、この度は第三回ナポロアリス杯東北
リトルリーグ野球大会を開催し、頂き、池本
社長をはじめ、貴社々員の方々に深く御礼申
上げます。

今年の当リーグとしまして、春先の段階で
は、リトル歴が浅い選手が数多くおり、力不
足を否定できない状況でありました。はたし
る試合が、きめるのか、アウトを取ることが、
きめるのか、そこからスタートでした。

何とか試合が、きるまで力をつけました。が、
練習試合では連敗を重ね、二十点以上の失点
をしたゲームも数試合ございました。
選手たちの心にも、悔しい、という気持ち
が、あつたと思ひます。選手たちは土、日の全
体練習に平日は自宅での練習で着実に上達し
ていきました。

六月以降は、練習試合や大会でも勝てるよ

うになりましたか。どの大会もベスト4止まりです。人は欲がぶる生き物の様で、勝てる様な力をつけるよ。次は三位以内に入りたい。メダルを取りたいと思いが湧いてきます。ここ三年間の当りーゲのマイナ1千1ムは比較的にかかある世代ぶした。三年前の千1ムは福島県大会を制し、一昨年も優勝して二連覇。昨年の千1ムは津優勝をし、おります。今年の千1ムぶりトル歴が長い選手は、その不安を見まきまいるのぶ。特に大会ぶ結果をたしたいと思っ。まいたと感じまおります。その中ぶ六月から十月まぶ。全ぶの大会ぶ準決勝敗退。もしくはは三位決定戦ぶ敗れ。メダルを手にすることぶがぶきませんぶした。ナプロア1ス杯が今年最後の大会となり、現千1ムとしまも三位以内ぶ入賞する最後の千1ムスとなりました。選手一人一人が力を出し切り、三位入賞を果たし、念願のメダルを頂くことがぶきましました。メダルをもさぶ。た選手たちは、とくも嬉

しかつた様ご、家に飾ると言つておりました。
こちらとしてくも、野球を通じても何か大切な
物を教えるもらひ、選手たちにも伝えられた
と感じております。
それも池本社長をはじめ、貴社々員の方々
が熱い気持ちで大会を開催しく頂いたおかげ
であります。心より感謝申し上げます。
大会後のミーティングで選手たちには、
「ナプロアースの皆さんが働いたお金と情熱
で大会が開かれたこと。本来、会社のお金は
社員の方々のお給料になるか、次の仕事に使
うところをリトルリーグのために回しく頂
いたこと。日曜と祝日の休みを返上しく大会
を開くもらえたこと。」
を話ししました。
更に
「メダルを頂いたかは、それに相応しい
人間になること。それは言葉の使い方があり、
態度で、行動で、あること。それらが出来
れば、メダルの価値が上がる。過去の結果は

亦交えることは出来ないが、価値は変えらる
こと。それによつて思い出の価値も上がる。
ことを伝えました。
リトルリーグは、まだまだ先が長い子ど
もたちです。貴社と共に伊達地区の子どもた
ちや、ナポア杯に出場した子どもたち
の未来を見届けられたら幸いです。
ります。

最後に、池本社長、相浦専務、大会開催に
ご尽力をつくされた斎藤様、八巻様、貴社の
全社員の皆様、大会に協賛して頂いた御企業
様の御多幸をお祈り申し上げます。

平成二十八年十一月

伊達リトルリーグ コーチ

マイナー監督 高野 英則